

おじいちゃんと
ぼくが過ごした4か月

しばたろ



雨降る夜、お父ちゃんから電話があったよ
「子猫拾っちゃったんだけど、どうしよう？」

雨の中、足を怪我したボロボロの子猫が足元に来ただって。
電話受けた母ちゃんは「四の五の言わずに連れてこい!!!」って怒ってたよ（笑）

どうしよう？



うちにはもう柴犬さんが三匹いるよ。
小太郎おじいちゃんはほとんど寝たきりだよ？
飼えるかな？飼えるかな？

よし、小太郎おじいちゃんに聞いてみよう。

おじいちゃん

おじいちゃん、おじいちゃん。
子猫が来たよ、小さい子猫だよ？
おじいちゃん仲良くできるかな？



小太郎 「おちびちゃん、きみのおうちは？」

子猫 「わかんない、寒くてお腹がすいて鳴いてたらここにいたよ」



小太郎 「よしよし、うちの子になりなさい。おじいちゃんの話し相手になっておくれ」

子猫 「もうお腹すかない？寒くない？ぼくここにいていいのかな？」

小太郎おじいちゃんが良いいって言ってくれたよ、

子猫が家族になったよ、お名前何にしようかな？

おじいちゃんの日

小太郎おじいちゃんが家族にしてくれたよ。

おじいちゃんはおめめ見えないからサークルの中で過ごしてるよ。

サークルをぐるぐるして、疲れると寝ちゃうよ。

一日のほとんどを寝てるんだって。



ぼくはそのサークルに入っておじいちゃんと過ごすよ、

おじいちゃんおめめ見えないからクンクンするんだ、くすぐったいよ。

おじいちゃん一日に動ける時間少ないよ、

いっぱい遊びたいけどね。

どんどん

どんどんぼくは大きくなるよ

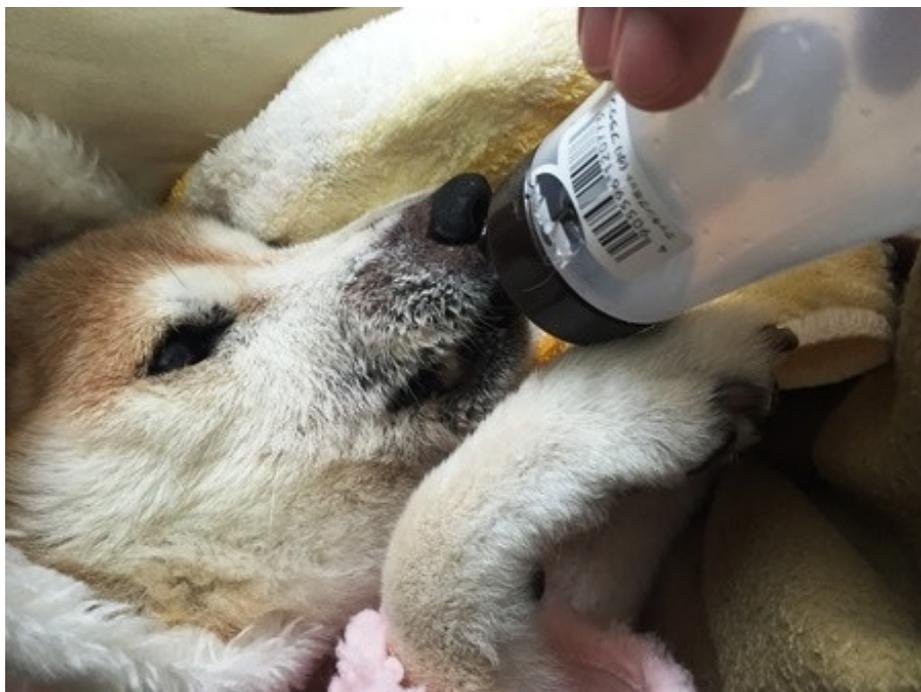
温かいお布団も、美味しいごはんも、優しいおじいちゃんもいるよ。

ここは暗くないね、寂しくないね、寒くないね。



でもね、おじいちゃんはどんどん痩せちゃうんだよ。
おじいちゃん、ごはんいっぱい食べなきゃダメだよ。

寒いのが寂しいのはぼくがそばにいるからね。



おじいちゃん、ごはんもお水も少ししか飲まないの
赤ちゃんみたいにちょっとづつ、母ちゃんが飲ませてるよ。

おじいちゃん、ぼく、またお話したくさん聞きたいよ。

ぼくはわすれない



おじいちゃんがおめめを開けてる時間が少しになったよ。

もうぼくのことわからないけど、ぼくはおじいちゃんのそばにいるよ。

おじいちゃんがぼくのことを忘れちゃっても、

ぼくはおじいちゃんを忘れないんだ。

今日は



今日はおじいちゃんのこども、
ぼくにとってはお姉ちゃんがお見舞いに来たよ。

今までは喧嘩しちゃうからそばに来れなかったんだって。
おじいちゃん、良かったね。
お姉ちゃん来てくれたよ。



おじいちゃん、おじいちゃん、

ぼくは毎日毎日、おじいちゃんを呼ぶよ。

おじいちゃん、もう一度立てるといいね。

またクンクンしてほしいなあ。

しんねん

新しい年になってすぐ、小太郎おじいちゃんがお空へ旅に出たんだよ。
ぼくはよくわからなかったけど、おじいちゃん呼んでもお返事なかった。



みんな悲しい悲しいって言うてるからぼくも悲しくなった。

もうおじいちゃんには会えないんだって。



たくさんの方がかなしいかなしいって言ってくれたよ。

おじいちゃんはすごく愛されていたんだよ。

おじいちゃんがくれたもの

おじいちゃんもずっと昔にお山の中に置き去りにされたんだって。

廃墟につながれたまま、何日も何日もお腹がすいて鳴いていたんだって。



おじいちゃん、あったかいお家もごはんもあってよかったね。

そしてぼくにもおなじものをくれてありがとう。

おじいちゃんは、たくさんの物をぼくにくれたんだ。

おそらへ

小太郎おじいちゃん、お空の上で元気になっていますか？

お姉ちゃんと仲良しだよ、
毎日が幸せだよ。



いつのまにかぼくがこの家に来て1年たったよ。

体もでっかくなったよ、いっぱいごはん食べるよ。

おじいちゃん、お空から見ててね、

ぼくはおじいちゃんのくれた幸せをまた誰かに伝えるから。

おじいちゃんとおぼくが過ごした4か月

<http://p.booklog.jp/book/109877>

著者：しばたろ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/ulacalaloves/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/109877>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/109877>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ